

「うみかぜセミナー：発達障がいと遊び、学び」のご案内

滋賀県立大学子ども未来応援プロジェクトでは、子どもたちの健やかな育ちを応援するため、さまざまなとりくみをおこなってきました。発達心理学、栄養学、助産学分野の研究をはじめ、母子支援活動を進めて、子育てに携わっているみなさんと幅広く連携していきたいと考えています。今年度も「うみかぜセミナー：発達障がいと遊び、学び（全3回）」を開催することになりました。本セミナーでは、主に保育士や教員、臨床発達心理士など子育て支援にかかわる方々を対象に、「保育と発達支援の専門性」を高める研修の場となることをめざしています。上記専門職以外で関心をお持ちの方々、当事者／保護者のご来聴も歓迎いたします。

＜セミナー実施日程＞

第1回 2011年11月20日（日）木村 順氏（作業療法士、療育塾ドリームタイム主宰）講演

「育てにくい子にはわけがある」

第2回 2011年12月17日（土）赤木和重氏（神戸大学大学院人間発達環境学研究所准教授）講演

「楽しい保育・楽しい授業と特別支援教育」

第3回 2012年 2月18日（土）神谷栄司氏（京都橋大学人間発達学部教授）講演

「子どもの『遊びにくさ』をどうのりこえるか——生活と発達の障害」

第3回は下記の内容でおこないます。

# 子どもの『遊びにくさ』をどうのりこえるか

## —生活と発達の障害—

神谷栄司氏（京都橋大学人間発達学部教授）

講師プロフィール

京都大学教育学部卒業後、京都大学大学院教育学研究科博士課程、大阪千代田短期大学、佛教大学を経て現職。教育学の中でも、ヴィゴツキー理論と子どもの発達、保育理論を主たるテーマに、ロシア、中国、台湾、ポルトガル、イランなど、諸外国との理論、実践交流を通じて研究を展開しておられます。ヴィゴツキーは心理学のモーツァルトとも評される著名な発達心理学者で、ごっこ遊びや劇遊びを大切に、表現活動を保育・教育において総合的にとらえることの意義を指摘しています。本講演では、ヴィゴツキーの考えも紹介していただきつつ、発達障がいのある場合に、どのような遊びや遊びの場が必要とされているかについてお話いただきます。

《主な著書》

- 神谷 栄司「子どもは遊ばなくなったのかー『気になる子ども』とヴィゴツキーニスピノザ遊び理論」（三学出版）
- 神谷栄司「幼児の考え方・感じ方と遊びー『子ども自身のドラマ』の展開」（三学出版）
- 神谷栄司「保育のためのヴィゴツキー理論」（三学出版）など。

日時：2012年 2月18日（土）13時30分～15時30分

会場：滋賀県立大学交流センター1階研修室

参加費：無料（事前登録も必要ありません。）

▼ JR彦根駅からバスで13分/タクシーで8分 ▼ JR彦根駅からバスで16分/タクシーで10分



主催：滋賀県立大学子ども未来応援プロジェクト  
障がいのある子と保護者の共助サークル「みんなあつまれ」  
滋賀県立大学人間文化学部人間関係学科  
後援：日本臨床発達心理士会京都・滋賀・奈良支部  
＜問合せ先＞ 滋賀県立大学子ども未来応援プロジェクト  
〒522-8533 彦根市八坂町2500  
滋賀県立大学人間文化学部 竹下秀子研究室気付  
子育て応援うみかぜ  
Tel: 090-7343-2405 Fax: 0749-28-8559  
E-mail: usp-umikaze@nifty.com  
URL: <http://umikaze.sub.jp/kodomo/home.html>